

令和4年度は、重点目標を「専門職として組織を持続発展させる」とし、3つの目標を挙げて取り組みました。

1つ目の目標は、昨年同様に病院理念の「心あたたまる病院」と看護部理念の「信頼される質の高い看護」を目指すために「患者・家族の思いに寄り添った看護を提供する」としました。各部署で患者・家族がどのような人生を歩み、何を大切にしているかを理解するために看護の心を育む取り組みを行いました。

新生児科病棟では一部の看護師を産科病棟と小児科病棟に配属し、患者さんが新生児科から小児科へスムーズに移行できる体制としました。また、退院後も母児が安心して自宅で過ごすことができるように、産科病棟の空床を利用して「産後ケア事業」を開始し、院内からの利用者は増加傾向です。

また、がん関連の認定看護師による「がん看護外来」を空いている診察室を利用するのではなく、患者さんのプライバシーに配慮した専用の部屋を設置し、相談しやすい環境を整えました。患者さんからは、「周りを気にしなくていいので安心して相談できる」と高評価をいただいています。

2つ目の目標は、昨年の接遇力向上からステップアップして「ホスピタリティマインド（もてなしの心）を高め組織を活性化する」としました。

各部署が対話を通してお互いを認め合う職場となるようにアサーティブコミュニケーションを心がける事ができていました。朝から元気に挨拶を交わす姿は、とてもさわやかで一日の活力に繋がっていると感じています。

院内教育では、グループワークを中心に行う研修が増えたことも有り、病棟で行うカンファレンスや多職種カンファレンス内でも積極的に自分の意見を伝える事ができるようになり、組織の活性化に繋がっていると評価しています。

3つ目の目標は、職員が健康で安心できる環境を整え専門職として成長できるように「ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を推進し専門職として成長する」としました。

職員一人ひとりが自分の健康を考え安心できる環境で働くことは、将来の展望や学習意欲につながります。専門職として成長するためにタスクシフト／シェアを推進し看護ができる環境を整える必要があります。

昨年に導入した夜間看護補助者の配置に引き続き、日中の看護補助者の増員を行いました。これにより、各病棟への看護補助者の配置人数を増やすことができ、配属できなかった部署にも配置することができました。そのため、介護福祉士の資格取得者は、看護補助業務だけでなく介護福祉士として患者さんへ直接ケアができる体制が整いました。各自が役割を発揮できるよう今後もタスクシフト／シェアを推進します。

次年度は、新規採用者を多数迎えます。職員が自分も人も大切に生き生きと看護ができる環境を整備し、看護の心を育み看護力を強化することができる人材の育成が課題です。

また、新病院の建設が始まります。これからも組織を持続発展させることを考え、努力してまいります。



看護部目標の1つとして「ヘルシーワークプレイスを推進し専門職として成長する」を上げ、厳しい現状でも看護職員が健康で安全に働き続けられる職場づくりに取り組みました。看護師不足に対応するために、6月よりGCU病棟の機能を3階に移行し効率的な組織運営を目指しました。そのような中、新型コロナウイルス感染症の第7派の急速な拡大により多くの職員が出勤困難となり、病院機能を維持することが困難となってしまいました。9月後半以降は、各部署の病床運営に必要な職員の確保ができるようになり、夏期休暇は100%取得を達成できました。しかし、残念ながら年休の取得は部署間で差がありました。そのため、第8派が落ち着く頃より、年休取得が低い部署にリリーフを積極的に導入し、年休取得推進を図り年休取得の平均化に取り組みました。

2024年度からは医師の働き方改革が本格的にはじまり、医療現場ではタスクシフト・タスクシェアの推進が更に求められてきます。多職種と連携しながら更なる業務負担軽減を行い、看護職がやりがいを持ち、年齢やライフステージにかかわらず心身共に健康で働き続けられるよう、引き続きヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）に取り組む必要があると考えます。

教育担当**副看護部長 竹田 貴子**

新型コロナウイルス感染症の拡大・蔓延は長期化し、看護職はその最前線で奮闘しています。このような中、少しずつでも教育を進めていこうと、さまざまな工夫を凝らし、院内教育を実施していきました。コロナ禍での院内教育研修について工夫した点は以下の2点です。

1点目は、受講生がOff-JT・OJTでの学びを看護に活かし、研修の効果や成長を実感できるよう、教育委員メンバーによるスタッフ支援を強化していきました。2点目は、スタッフの主体性が発揮できるよう「考える力」を養うための研修内容を検討していきました。また、働き方改革や業務時間での研修の実施が求められる中、eラーニングシステムの活用は研修時間の短縮に大変役立ちました。

今後は、ワークエンゲージメントを高め、スタッフ自らの内発的動機に基づいて、いきいきと働けるようになるために、ゆっくりと看護を主語に語り合い、学びあう場を作っていくことが課題です。明日からの看護に自信を持って臨めるよう創造していければと思います。

人材確保・広報**副看護部長 町田 裕子**

新型コロナウイルス感染症の影響があるなか、千葉市立病院で働きたいと考えている方々に、どうしたら具体的な職場イメージを届けられるか考えて取り組んできました。残念ながらインターンシップは開催できませんでしたが、病院説明会はオンラインのみではなく、感染状況を鑑みながら対面で開催することができました。また、近隣の商業施設のご協力を得て、市民公開講座「脳を活性化して、自分らしく生活しよう！」を開催しました。さらに、今年度は、認定看護師を中心とした看護師らの取り組みを看護情報誌に紹介するチャンスにも恵まれました。

令和5年度以降も、千葉市立病院として「患者・家族の思いに寄り添った看護」を実現するため、千葉市立病院を知っていただく活動を継続していきたいと思います。

2. 看護部の理念と目標

【看護部の理念】

私たちは病院理念に基づき、市民の皆様に信頼される質の高い看護を提供します。

【基本方針】

1. 人権を尊重し、安全・安心な看護を実践します。
2. 地域との連携を深め、継続的な看護を提供します。
3. 知識・技術・感性を磨き、自律した専門職を育成します。

【目標】

1. 患者・家族の思いに寄り添った看護を提供する
2. ホスピタリティマインド（もてなしの心）を高め組織を活性化する。
3. ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を推進し専門職として成長する。

【各部署の目標と評価】

病棟目標は部署の特徴にあわせて立案され、スタッフの個人目標に繋がり、概ね達成できました。看護力の強化に繋がったと評価しています。

| 部署 | 重点目標と評価 |
|----------|---|
| 7階病棟 | 重点目標を「専門職として質の高い看護を提供する」とし、「安全・安心な看護」と「働き続けられる職場作り」に取り組んだ。安全な分娩・療養環境の提供と非常事態への対策をとることができ、地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすことができた。また、チームで人材育成に取り組むことで継続した支援ができ、育成環境が整備でき職場満足度調査ではおおむね満足している結果となった。患者と職員の安全と安心に取り組んでいくことで質の高い看護実践につながったと評価する。 |
| 6階病棟 | 重点目標を「専門職として多職種と協働し、患者・家族が望む療養支援ができる」とし、「患者・家族が安心安全に退院後の生活を送るための療養支援」「接遇力の向上」「心身共に健康で働き続けられる職場環境の整備」に取り組んだ。スタッフ個々が考える機会を大切に、リフレクションカンファレンスやアサーションロールプレイを導入したことは、看護実践の共有・相手の立場に立ち考える機会となり、その後の看護実践に繋がったと評価する。 |
| 5階病棟 | 重点目標を「ホスピタリティマインドを發揮し、質の高い看護を提供する」として、エビデンスに基づいた安全で安心な看護を提供すること、患者家族によりそう個別性のあるチーム医療を提供すること、チーム力を高めヘルシーワークプレイスを目指すことに取り組んだ。特に、他職種の医療チームで、患者・家族の意思決定支援への取り組みが活性化できた。また、診療科の拡大に対応するために受け入れ体制を整備し安全な看護が提供できたと評価する。 |
| 4階病棟 | 重点目標「ヘルシーワークプレイスを推進し専門職として成長する」という目標の元、自分たちが考える「働きやすい、働き続けられる職場環境」はどのようなものか考えるところから始めた。マニュアルの整備やパスの修正、物品の配置変更などたくさんのが改善された。今後も限られた人材、資源、時間のなかで改善を続け、働きやすい職場をつくっていききたい。スタッフ自らが改善案を持ち改善に向けて行動できるようになることが課題である。 |
| 3階病棟 | 重点目標「お互いを支え合い、チームとして安心・安全な看護を提供する」とし、多職種や他部署と定期的なカンファレンスを行った。退院を見据えた患者家族のニーズについて検討し地域につなげた。面会制限の中、こどもの権利について話し合い、患者の状況に合わせた対応を検討した。GCU病床では、体制を整備し運用を確認しながら安全な稼働ができた。多職種で意見交換を行いお互いの理解を深め、チームとして安心安全な看護の提供ができたと評価する。 |
| 新生児科病棟 | 重点目標「児の成長と親子の相互交流をホスピタリティマインドで支える」とし取り組んだ。看護の質を高め、安全・安心な看護を提供するにおいて、DCカンファレンスを定期開催とした。またコロナ禍で面会制限が続く中、安全な面会方法と、児の発達と親子の愛着形成や成長・発達を促進するにはどうしたら良いか、繰り返しカンファレンスを行ない検討した。地域のくらしにつなげる看護の提供においては、多職種と定期的な退院支援カンファレンスを行うことや、看護サマリーの充実を図ったことで、GCUや小児科移行がスムーズで、継続看護に繋げる事が出来たと考える。健康で安全な職場作りにおいては、ハッピーカードを導入し、互いに認め合い、安全で安心な職場作りに繋げる事が出来たと評価する。 |
| ICU病棟 | 重点目標「クリティカルケア看護の基本を踏まえて、安心な療養環境を提供する」とし、コミュニケーションスキルを高めチーム力を向上すること、組織体制を見直し働きやすい環境を整備すること、クリティカルケア看護の基本を踏まえ安全に看護を実践することに取り組んだ。これらの取り組みは、多職種との関係構築にもつながり、患者・家族の安心な療養環境のみではなく、医療者自身の安心な職場環境にもつながったと評価する。 |
| 手術室 | 重点目標を「周術期にある患者と家族に寄り添い、安心安全な看護を提供する」とした。看護師が周術期チームの一員として、専門性の発揮などの役割を果たすとともに周術期の患者と家族を理解し、看護ケアを実践するための取り組みを行った。このうち、定期的なミニカンファレンスでは、相互理解を深め看護観を共有することができ、安心安全な看護につなげることができたと評価する。 |
| 外来 | 重点目標を「ホスピタリティマインドを育み患者・家族に寄り添う看護を提供する」とし、スタッフ同士が互いに接遇を意識し働きやすい職場を目指すために、毎月スローガンを掲げ朝礼で唱和した。そして、サービスサイクルやコミュニケーションスキルの勉強会を開催した。これらの活動を通し、ホスピタリティマインド向上への意識付けに繋がったと評価する。 |
| 相談支援センター | 重点目標は「相談業務・入院支援を充実し、患者及び家族に安全・安心な質の高い看護を提供する。」とした。入退院支援連絡票の記載基準や業務手順の見直しをした。特に質が向上したのは、退院困難患者の抽出である。退院困難者として抽出した場合、入退院支援連絡票を記載し、その後の地域連携室が介入した状況を確認した。昨年度と比べ、介入率は25.4%と上昇した。要因として①入退院支援連絡票の記載基準を見直した事②包括的なアセスメントを記録に書くことができた事③2018年から入退院支援が始まり、白紙からのスタートであったが、スタッフの経験知が付き患者を捉える力がついてきたためと考え、質が高くなったと評価する。 |

3. 看護職員状況（常勤）

1) 看護配置状況（令和4年4月1日時点）

病床数： 293 床 看護単位：9単位

常勤看護要員：看護師 253名 助産師 27名 介護福祉士 3名 看護補助員 4名

会計年度任用職員看護要員：看護師 12名 助産師 2名 介護福祉士 4名

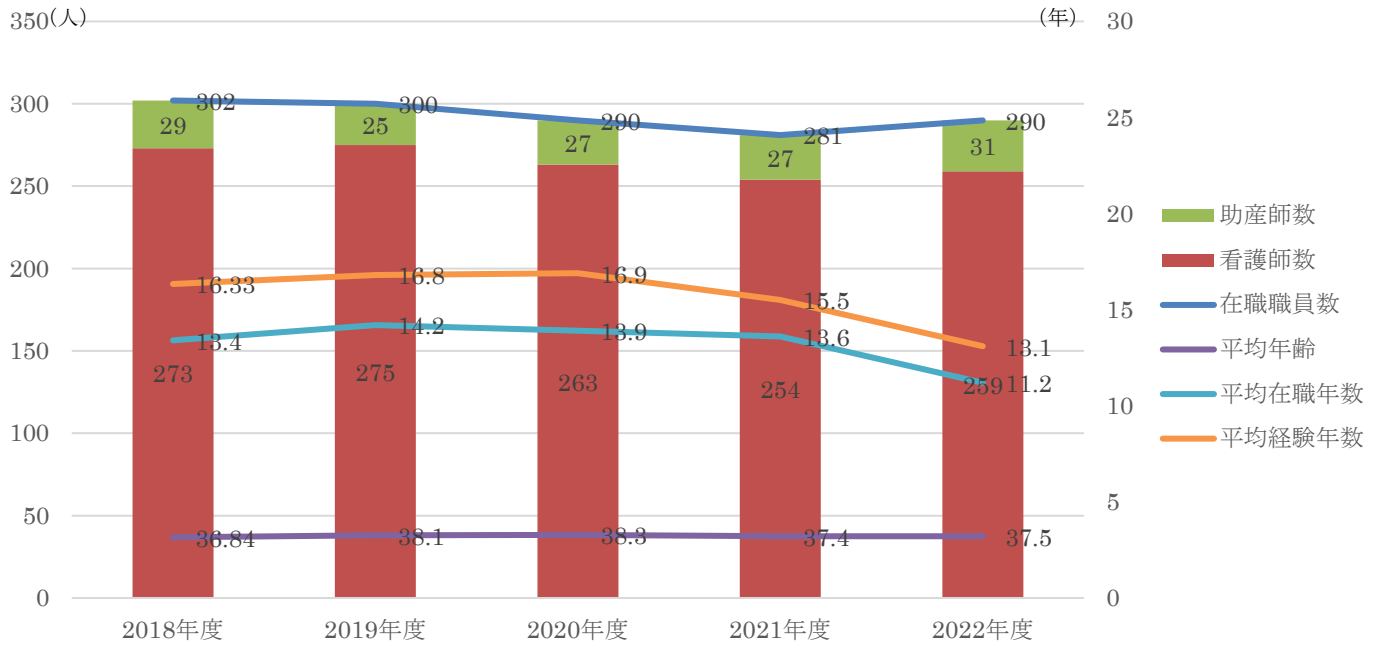
（非常勤） 看護補助員 1名 看護クラーク 7名

病床等

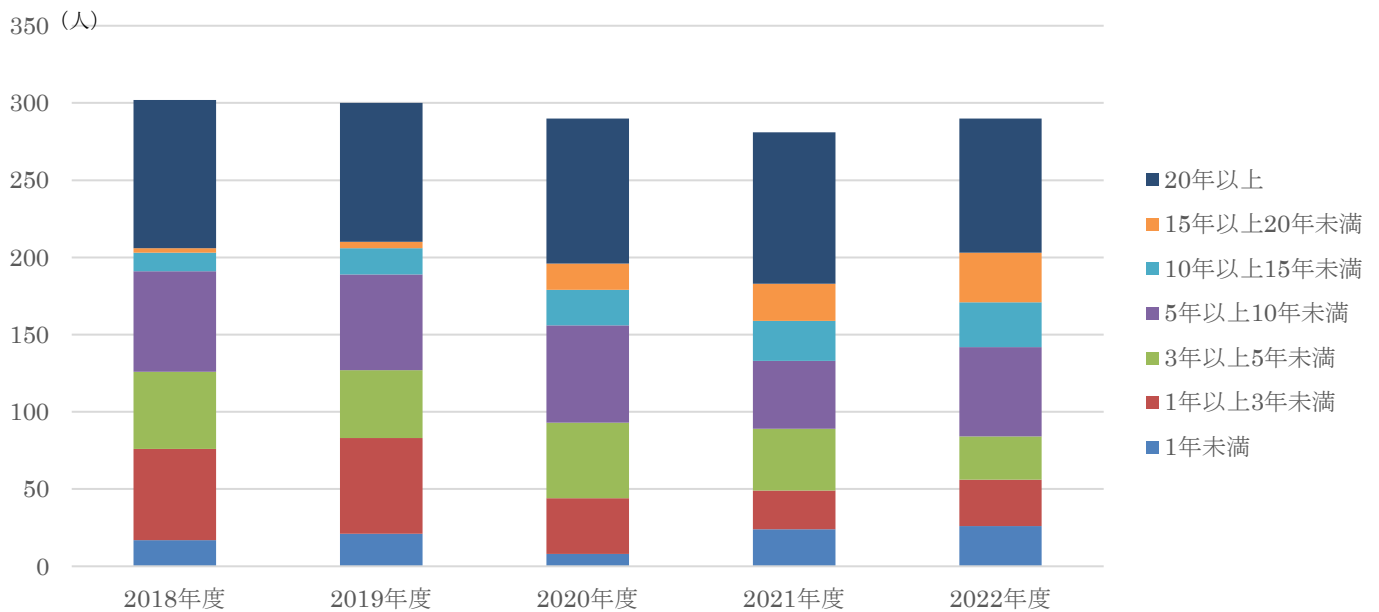
| 看護単位 | 病床数 | 看護配置体制 | 備考 |
|---------|-------------------|--|-------------------------|
| 7F病棟 | 44床 (MFICU:3床) | 7対1 (MFICU:3対1) | |
| 6F病棟 | 53床 | 7対1 ハイケアユニット入院医 療管理料 (常時4対1 4床) | 新型コロナウイルス陽性患者 受け入れ対応 |
| 5F病棟 | 50床 | 7対1 | |
| 4F病棟 | 44床 | 7対1 小児入院医療管理料4 (12床) | |
| 3F病棟 | 42床 | 小児入院医療管理料1 常時7対1 夜間9対1 ハイケアユニット入院医 療管理料 (常時4対1 4床) | 新型コロナウイルス陽性患者 受け入れ対応 |
| NICU | 21床 | 総合周産期特定集中治療 室管理料2 常時3対1 | |
| GCU | 25床 | 小児入院医療管理料1 常時7対1 夜間9対1 | |
| ICU・CCU | 14床 | ハイケアユニット入院医 療管理料 常時4対1 | 新型コロナウイルス陽性患者 受け入れ対応 |
| 手術室 | 5部屋 | | |

2) 職員動向 (令和5年3月31日時点)

① 看護師・助産師数・平均年齢・平均在職年数・平均経験年数



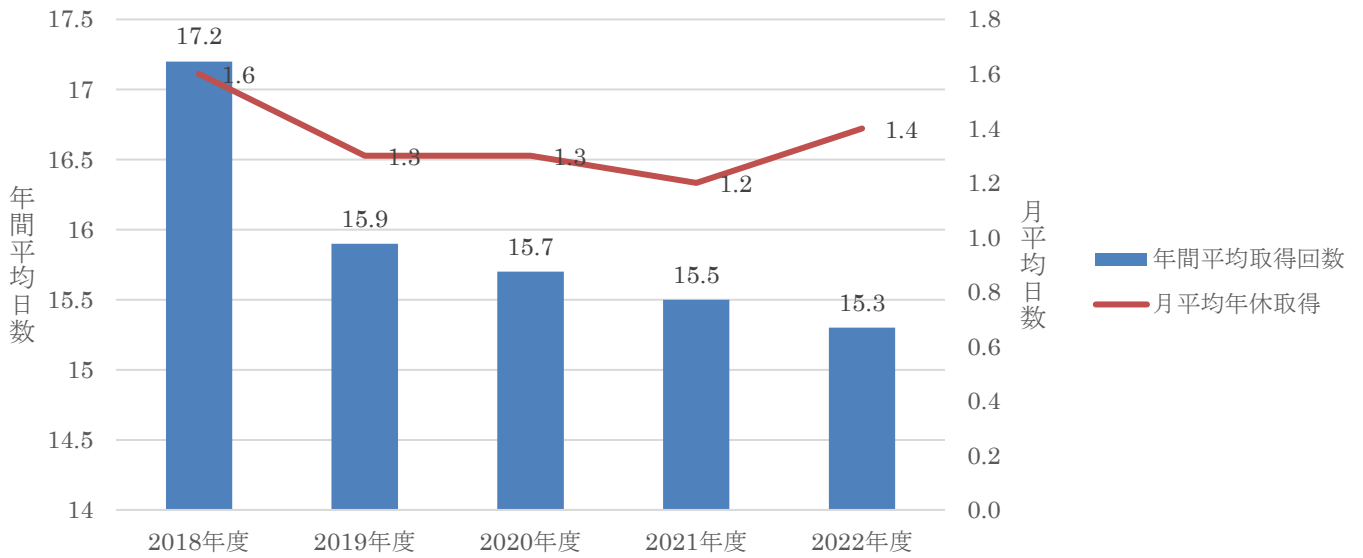
② 経験年数



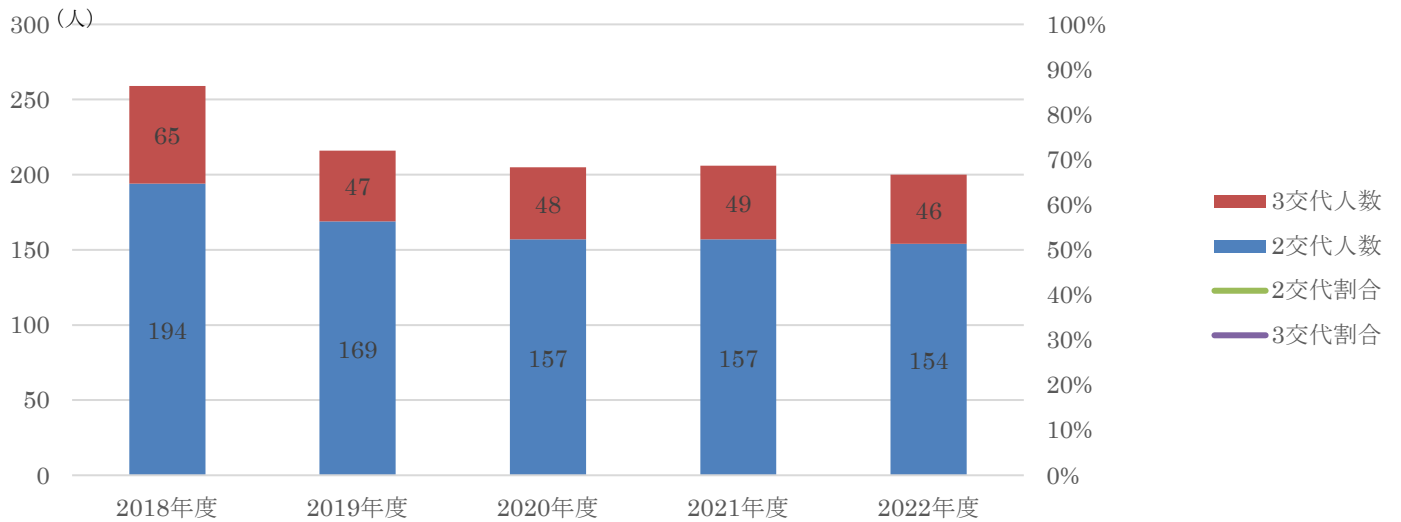
③ 産休・育休・特別休暇等の取得状況 (令和5年度3月31日時点)

| | 産休 | 育休 | 部分休 | 育児短時間 夜勤無 | 育児短時間 夜勤有 | 介護 | 病休 | 退職 | 計 |
|----|----|----|-----|--------------|--------------|----|----|----|-----|
| 人数 | 19 | 32 | 12 | 19 | 13 | 1 | 22 | 4 | 122 |

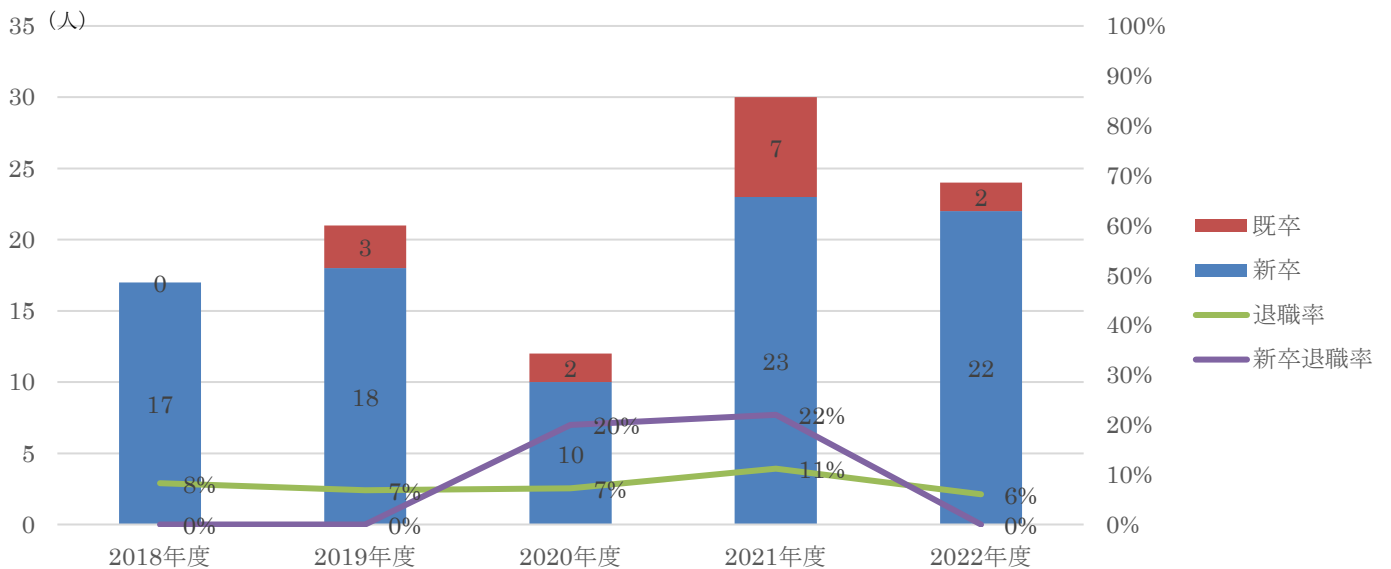
④ 年休取得状況



3) 夜勤選択割合 (2交代と3交代) (令和5年3月31日時点)



4) 採用と退職者数 (令和5年3月31日時点)



2022年度研修受講状況

1) 院外研修受講状況

| | 全体 | フルタイム 勤務 | 部分休 勤務 | 短時間 勤務 |
|---------------|-----|-------------|-----------|-----------|
| 研修対象者数(人) | 280 | 251 | 12 | 27 |
| 院外研修・学会受講数(人) | 174 | 158 | 5 | 11 |
| 院外研修受講率 | 62% | 62% | 41% | 40% |
| e-ラーニング受講率 | 88% | | | |

2) 院内研修受講状況

| ラダー | 研修数 | 研修延べ日数 | 時間数 | 研修参加人数 | 延べ時間数 | 参加延べ人数 |
|------|-----|--------|-------|--------|--------|--------|
| I | 8 | 18 | 53.5 | 204 | 1548 | 468 |
| II | 12 | 32 | 46.5 | 178 | 596.5 | 388 |
| III | 9 | 11 | 30 | 98 | 267.5 | 117 |
| IV | 3 | 9 | 25 | 24 | 245 | 73 |
| V | 1 | 3 | 1.5 | 0 | 0 | 0 |
| 選択 | 6 | 29 | 27 | 28 | 119.5 | 102 |
| 院内認定 | 2 | 8 | 12 | 10 | 60 | 40 |
| 合計 | 41 | 110 | 195.5 | 542 | 2836.5 | 1188 |

5. 看護部 2022年度委員会活動

| 各委員会 | 活動内容 |
|--------------|---|
| 教育委員会 | <p>コロナ禍においても教育を進めていこうと、教育委員会のメンバーがさまざまな工夫を凝らして年間計画通り実施できた。</p> <p>今後は、ワークエンゲージメントを高め、スタッフ自らの内発的動機に基づいて、いきいきと働けるようになるために、ゆっくりと看護を主語に語り合い、学びあう場を作っていくことが課題である。</p> |
| 臨地実習指導委員会 | <p>2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、BCPのフェーズに準じた受け入れを行った。そのため、受け入れ停止や実習時間の短縮をフェーズに併せて、教育機関との連携を強化して柔軟に対応した。</p> |
| 業務・改善用具検討委員会 | <p>昨年度に引き続き看護用具・医療機器管理方法の見直しをおこなった。具体的には、ベッドの点検済み表記を輸液ポンプなどの点検バンを用いて院内統一とした。また、各種点検表の見直しやリユースしている診療材料の管理運用方法の整備をおこなった。さらに、院内掲示物の点検を行い、期限切れの掲示物や見やすさなどを検討し、掲示物の整理整頓を行った。今後も安全で、質の高い看護を提供するための無駄を省き、業務の改善を行うとともに、適正な看護用具・医療機器管理および整備をおこなっていく。</p> |
| 記録委員会 | <p>看護記録の質の担保の精度をあげるため、記録委員会設置要綱の改訂を行った。また、次年度の電子カルテ変更に向けた看護記録関連の対策を検討した。今後の課題は、他部署間での記録の監査を検討し、より正確に記録記載基準に則った看護記録ができるようにしていくことと、その看護記録記載基準を満たすための教育である。</p> |
| 看護師助産師会 | <p>新入職会員に歓迎の記念品を贈呈した。会員にむけた講演会は、講師に滑川周平氏を招き、「東洋哲学から読み解く寄り添う力」と題して、本当に大切なことは何か、痛みや苦しみを豊かさに変え、人の想いに共感できる豊かな人間性の磨き方について講演された。今後も、看護師・助産師同士の親睦・研究・教育を通し自己研鑽を図れるよう、会員の支援を行っていきたい。</p> |
| アシスタント会 | <p>毎月スキルアップの勉強会を開催し、日々の業務を振り返ったり、困り事を共有したりしながら業務改善につなげた。</p> |
| アシスタント業務検討会 | <p>看護補助者業務マニュアルの見直しを行った。また、11月より派遣職員による看護補助者が配置となり、導入から業務実施までの確認を行った。次年度も、タスクシフト／シェアを推進していく。</p> |

6. 看護部実績

1) 専門看護師・認定看護師 活動状況

専門領域の強化

日本看護協会認定の専門看護師【母性】1名、認定看護師【新生児集中ケア、緩和ケア、糖尿病看護、皮膚・排泄ケア、クリティカルケア、集中ケア、感染管理、乳がん看護、がん化学療法看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護】15名は、質の高い看護を提供するとともに、院内・院外の講師として活躍している。

また、学会認定の認知症ケア専門士取得者は、「院内デイケア」の計画など増加する高齢者への活動を積極的に行っている。

| | |
|----|--|
| 分野 | クリティカルケア領域：町田 裕子、岡崎 麻衣 |
| 実践 | 昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症や重症患者の受け入れ、病棟内での感染拡大予防に務めた。また、新たな診療科患者の受け入れを多職種、他部門と連携し整備した。看護実践では、重症患者の呼吸、循環の安定化、患者家族の精神的ケアを他職種と連携しながら行った。 |
| 指導 | 看護師のフィジカルアセスメント能力向上を目的に、ラダーⅠ、Ⅱ、選択コース研修を継続している。また、今年度よりラダーⅢ対象研修も開始し、各ラダーの研修を受講することでステップアップできるように、研修内容を構成した。研修、指導を継続していく。 |
| 相談 | 医療機器装着患者へのケアを中心に相談に応じている。 |

| | |
|------|--|
| 分野 | 母性看護：阿部 祥子 |
| 実践 | コロナ禍における面会制限に伴い母親学級を中止していたが、オンデマンドでの両親学級を実現した。結果妊婦と家族に対して分娩、育児に対する情報提供を実施できた。高度実践として社会的・精神的ハイリスクな対象者に対し、母親意識の形成・発達支援・母親役割支援を行った。 |
| 倫理教育 | 病棟において周産期メンタルヘルスサポートについての勉強会を企画、実施した。今後もスタッフが希望する内容や周産期を取り巻く環境に応じた勉強会を企画、運営しスタッフの知識や実践向上に努めたい。院内においては倫理Ⅱのコース研修を実施した。 |
| 相談 | 病棟スタッフからの患者ケア（主に妊産婦・母乳・退院支援など）に対する相談に対応した。今後はスタッフからの発案である双胎、品胎にむけて支援して行く。また他部署からの授乳や妊産婦に関する相談にも対応するための広報活動を行い母性看護の充実につなげたい。 |

| | |
|----|--|
| 分野 | 乳がん看護：中村 志穂 |
| 実践 | すべてのがん患者に対し、意思決定支援や治療に伴う有害事象対策、心理面支援など専門的な介入を実践していくために、がん領域の認定看護師と協働し、週5日間の「がん看護外来」を開始した。2022年度は、202件の相談対応を実施することができた。 |
| 指導 | チャレンジレベルⅢ以上のスタッフを対象に、緩和ケア認定看護師と協働し、「がん看護（緩和）」コース研修を行った。コース2年目には、研修で得た知識を活用し看護実践を行った事例を発表する発表会を開催し、5名の緩和ケア院内認定ナースを育成することができた。 |
| 相談 | 病棟、外来看護師から相談を受け、患者の言動、症状からアセスメントを実施し、提供すべき看護について共に考えることができた。 |

| | |
|-----------|---|
| 分野 | 皮膚・排泄ケア：鈴木 修子 |
| 実践 | <p>ストーマがあってもストーマがなかった時と同じ生活ができることを目標に、主治医や病棟看護師、地域連携室と綿密な情報交換を行いながら患者支援を行っている。2022 年度のストーマ外来件数は188 件であった。ストーマケアを通してがん終末期患者にも関わり、そこで得られた経験を患者会や院外講演を通して他者と共有しながら、よりよい医療を目指した。</p> <p>患者や家族、病院で勤務する様々な職種の方とコミュニケーションを持つことを大切にしながら、褥瘡対策チームの一員として褥瘡管理を担っている。2022 年度の褥瘡回診件数は270 件であった。</p> |
| 指導 | <p>「安楽で安全な療養の場を提供する」ことを目標に、院内においてポジショニングや排泄管理の研修を繰り返し開催した。褥瘡ケアに強い看護師を育成するため「褥瘡コース研修」を開催し、院内認定者を輩出した。患者の安楽だけではなく、医療者の労働負担の軽減を図るため、内科病棟における夜間の排泄・褥瘡管理について、病棟調査結果をもとにマニュアル整備を進めている。</p> |
| 相談 | <p>2022 年度は院内新規コンサルテーション 62 件、病棟訪問は延べ 111 回であった。相談においては問題解決のための個別の具体策を提案している。近年では継続して、日本オストミー協会千葉県支部において若いオストメイトを対象に日常生活上の相談を受け、地域との交流を図っている。患者を通して訪問看護ステーションからの相談も随時受け付けている。</p> |

| | |
|-----------|---|
| 分野 | がん化学療法看護：狩野 桂子、吉田 奈帆 |
| 実践 | <p>抗がん剤の安全な投与環境の整備における曝露対策として、CSTD の使用を全薬剤へ拡大・抗がん剤使用部署へスピルキットを設置。関連部署の訪問による曝露対策に関する学習会を実施し曝露対策に関する啓蒙活動を行った。</p> <p>患者・家族への支援としては今年度 11 月よりがん看護関連認定看護師 4 名で協働し、週 5 日のがん看護外来運用を開始。診療科毎に介入状況の差はみられるものの、202 件の介入を行う事が出来た。</p> |
| 指導 | <p>所属部署における抗がん剤投与場面において、主に安全な投与管理、投与前後の観察、曝露対策についての指導を行った。外来化学療法室においては、有害事象（悪心嘔吐、皮膚障害、末梢神経障害等）に関する相談対応の実践を通し、症状アセスメントおよび対処方法について部署スタッフへ指導を行った。</p> |
| 相談 | <p>主に所属部署や外来化学療法室スタッフより、意思決定支援や有害事象への対応、療養環境調整の対応についての相談あり。必要に応じて患者面談を行うと共に、部署スタッフが主体的かつ継続的に介入を行なえるよう支援を行った。</p> |

| | |
|-----------|--|
| 分野 | 緩和ケア：高島 美智子 |
| 実践 | <p>がんを抱えながら生きるすべての方を対象にがん領域の認定看護師とともに、がん看護外来にて相談対応を行った。また、緩和ケアチームにおいて身体症状の相談対応を継続して行っているが、今年度より緩和ケアチームに精神科医師の着任があり、病気の進行にともない生じた、抑うつやせん妄に対する対応にも力を入れている。</p> |
| 指導 | <p>緩和ケアチーム主催で、せん妄に対する学習会を開催した。また、院内教育ではがん看護研修コースを開催。5 名の緩和ケア院内認定ナースを育成した。</p> |
| 相談 | <p>緩和ケアチーム介入依頼のあった患者を中心に、病棟看護師の相談対応を行った。また、外来から在宅支援が必要な方に対し、外来スタッフとともに意思決定支援を行いながら生活を支える援助ができるようともに考えることができた。</p> |

| | |
|-----------|---|
| 分野 | 感染管理：窪田 眞弓、佐々木 みゆき、大内 咲絵 |
| 実践 | <p>病院内で発生する感染症の監視、対応、疫学的調査、また多剤耐性菌の保菌状況の把握と管理を行った。新型コロナウイルス感染症に対しては、最新の情報収集につとめ、適宜、院内の対応を整備し感染防止に努めた。発熱外来、陽性者外来に対応しつつ、千葉県以外からの小児科、産科の入院依頼も可能な限り受け入れた。第7波、第8波と市中感染者数が増加するなか、院内クラスターの発生を認め入院制限を余儀なくされたが、職員協力のもとクラスターを収束する事が出来た。</p> <p>また、他の感染症のアウトブレイクは起きなかった。</p> |
| 指導 | <p>ICT ラウンドを通して標準予防策の遵守状況や環境整備状況を確認し指導した。AST では抗菌薬が適正に使用されているか確認し、必要があれば適正使用となるよう指導した。院内研修は、e-ラーニング形式とし、未受講者へは受講するよう働きかけ受講率は99%だった。</p> |
| 相談 | <p>認定看護師3名で看護部門の各部署を分担して担当している。相互に連携をとりながら電話やメールでの相談に応じた。主な相談は新型コロナウイルス感染症への対応だった。</p> <p>また、部署の感染係から、手指衛生剤使用量増加に向け相談があり対応した。</p> |

| | |
|-----------|--|
| 分野 | 摂食嚥下障害看護：樋口 智也 |
| 実践 | <p>摂食嚥下障害に関する最新の知識を活用し、言語聴覚士や管理栄養士などと連携し、患者・家族の支援を行っている。在宅療養を望む患者や家族に対して、食事に対する注意点や口腔ケアの指導を行い。実際に退院後訪問での継続看護に繋げることができた。</p> |
| 指導 | <p>各部署の摂食嚥下障害看護の中心を担うスタッフの育成を目的にアドバンス研修を開催し5名が修了した。また、院内外のNST 専門療法士受講生の講義、新人研修も担当した。次年度は脳神経外科の診療拡大に伴い、摂食嚥下ケアのニーズが高まることが予測される。そのため、看護師を対象にした嚥下機能評価の学習会や指導を行い、当院の摂食嚥下ケアの裾野を拡大する。</p> |
| 相談 | <p>脳神経外科の診療が開始したことで、医師や看護師から嚥下機能評価の依頼件数が増加した。また、NST ラウンドを通じて相談対応を行なった。看護職者以外にも医師や管理栄養士などから口頭での相談を受ける機会が増加した。今後も実践を通して相談件数の増加に繋げる。</p> |

| | |
|-----------|---|
| 分野 | 認知症看護：藤原 成美 |
| 実践 | <p>週16時間の活動時間を利用し、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」のランクⅢ以上の入院患者を対象にプレラウンドを実施するとともに、多職種カンファレンスおよびラウンドを実施した。そのなかでは、各部署で対応に困っている症例のケア方法の検討や薬剤調整等を行った。また、院内デイケアに参加した患者の参加前後での変化は、入院病棟のスタッフと共有し日常ケアの質向上につなげた。</p> |
| 指導 | <p>毎週木曜日に開催しているラウンドやカンファレンスのなかで、多職種が意見や考えを述べられるようファシリテーター的、指導的役割を担い、具体的なケア方法の検討や患者情報の共有につなげた。</p> |
| 相談 | <p>ラウンド時を中心に、ケアや対応で困難を感じる場面の相談を受け、スタッフと一緒に解決できるよう取り組みを進めた。</p> |

| | |
|------------------|---|
| 分野 | 新生児集中ケア：伊東 真弓 |
| 実践 指導 | 新生児に関する専門的知識を活かし、チャレンジラダーⅡ以上のスタッフを対象に「新生児看護 アドバンスコース」研修をおこなった。新生児看護に関する知識が向上することで、水準の高い看護の提供と、他のスタッフに対する指導が行える人材を育成できるよう今後も取り組んでいきたい。 |
| 相談 | 新生児の退院支援に関し、カンファレンスに参加することで、新生児科のスタッフと必要な退院支援について情報共有し具体的な支援方法を考えることができた。家族の負担や不安の軽減につながるよう継続していきたい。 |

| | |
|-----------|---|
| 分野 | 糖尿病看護：水谷 幸子 |
| 実践 | 退院後も血糖測定、インスリン注射が必要な患者、その家族に対し、血糖測定、インスリン自己注射手技の指導を行った。また、膝全摘の患者に対し、シックデイ時の対応パンフレットを作成し指導を行った。糖尿病サークルの市民を対象に講義を行った。 |
| 指導 | 院外の医療従事者を対象とした研修会の企画・運営を行った。今後は院内の看護スタッフに対しても勉強会を開催する事で糖尿病に対する知識を深めてもらい、糖尿病看護の質の向上を目指していきたい。 |
| 相談 | 主に、自部署の看護スタッフからの薬物療法、低血糖時の対応についての相談に対応した。糖尿病患者は院内どの部署にも存在するため、自己の存在を認知してもらえよう広報し、相談が来るのを待つだけでなく、自身から他部署に出向き相談件数を増やしていきたい。 |

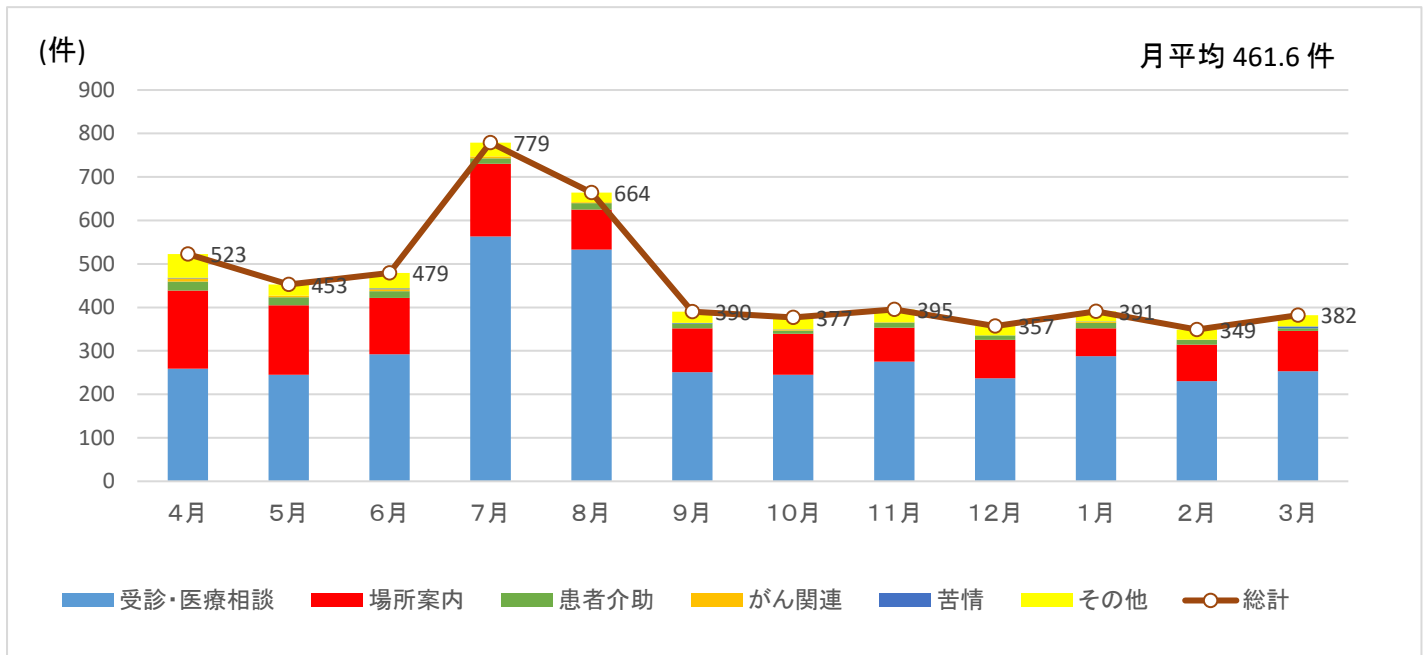
2) 相談支援センター：2022年度総合相談件数推移・入院支援件数推移

総合相談件数は、前年度 9592 件から 5157 件（月平均 461.6 件）と減少傾向であった（図①）

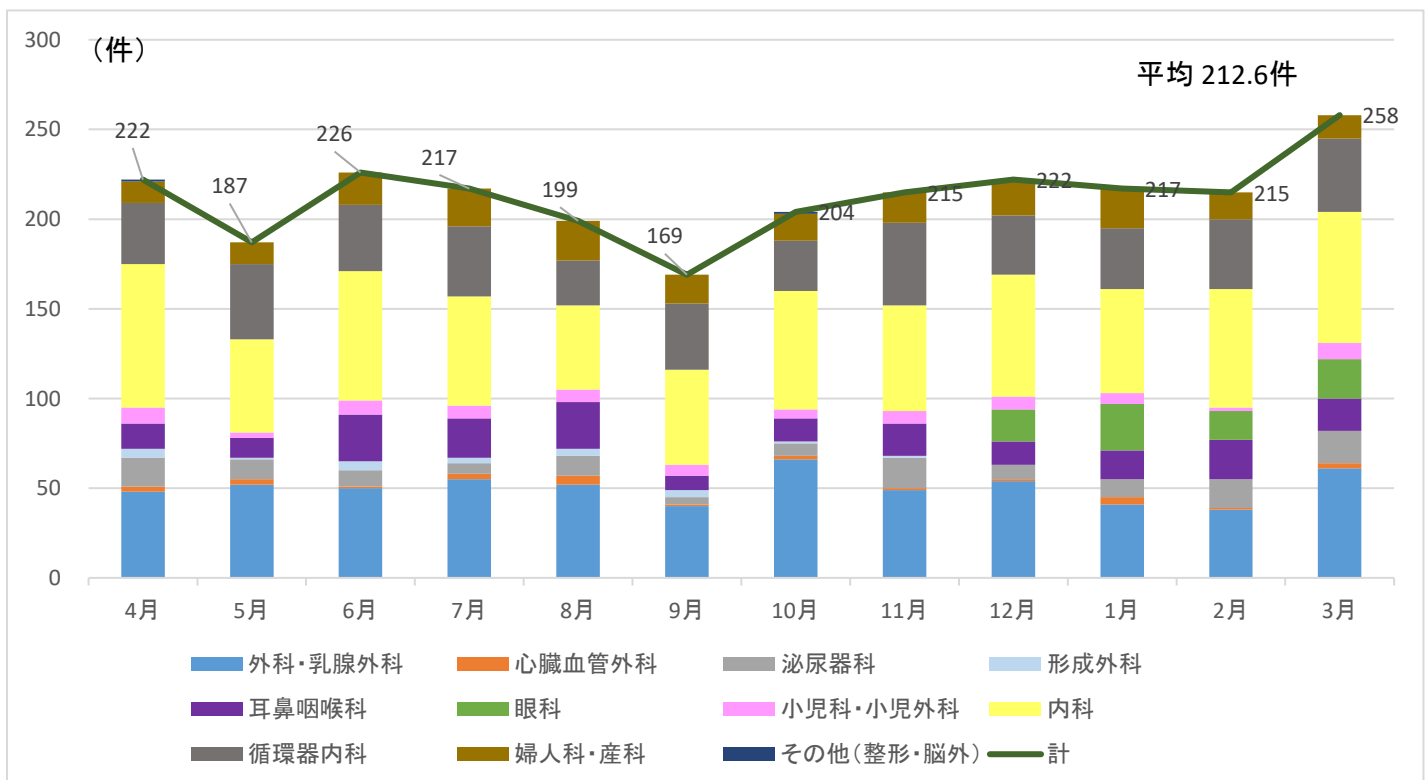
入院支援では、平均 212.6 件／年であった。（図②）

地域でも安心して暮らせるよう退院後訪問や同行訪問のほか、訪問診療にも同行し、医療的な視点で無く、看護の視点で患者の生活環境を整え、在宅支援のための調整を図った。今年度は計■件実施した。（図③）

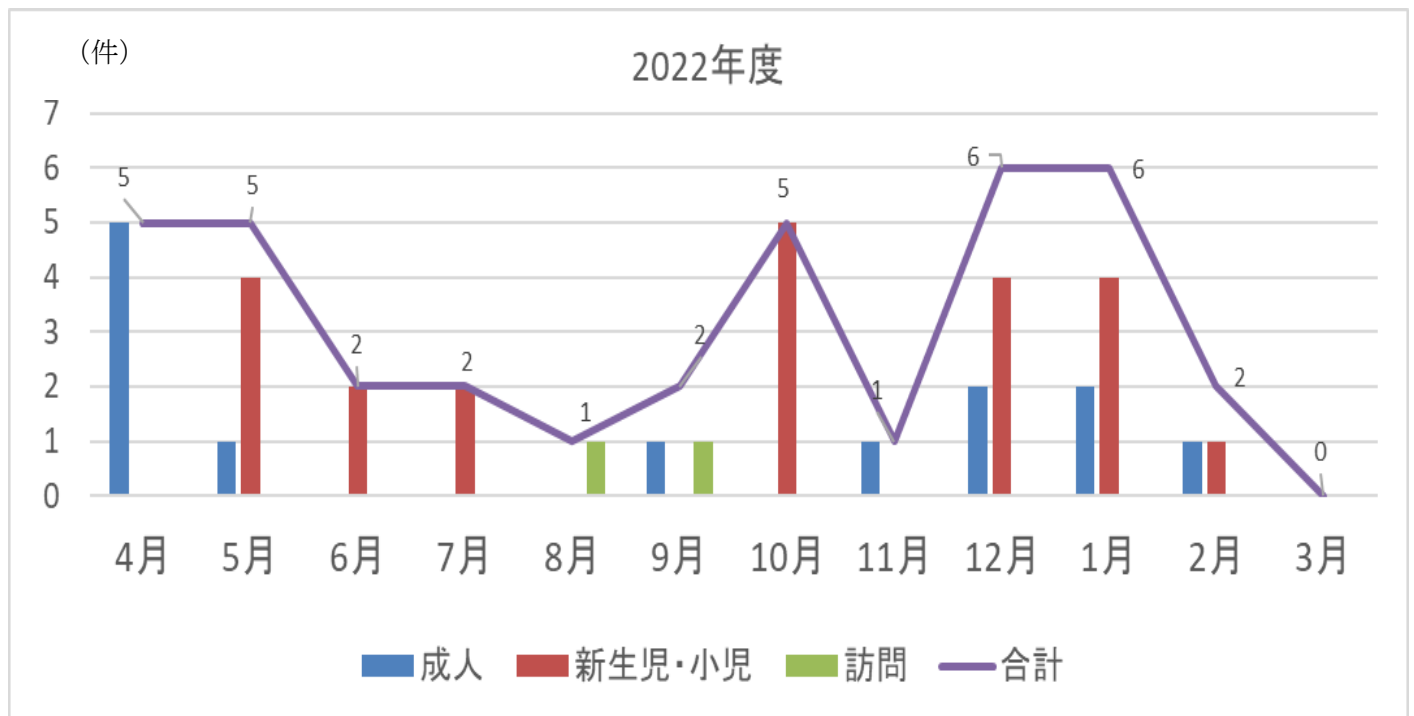
① 総合相談及び総合相談内訳



② 入院支援件数及び内訳

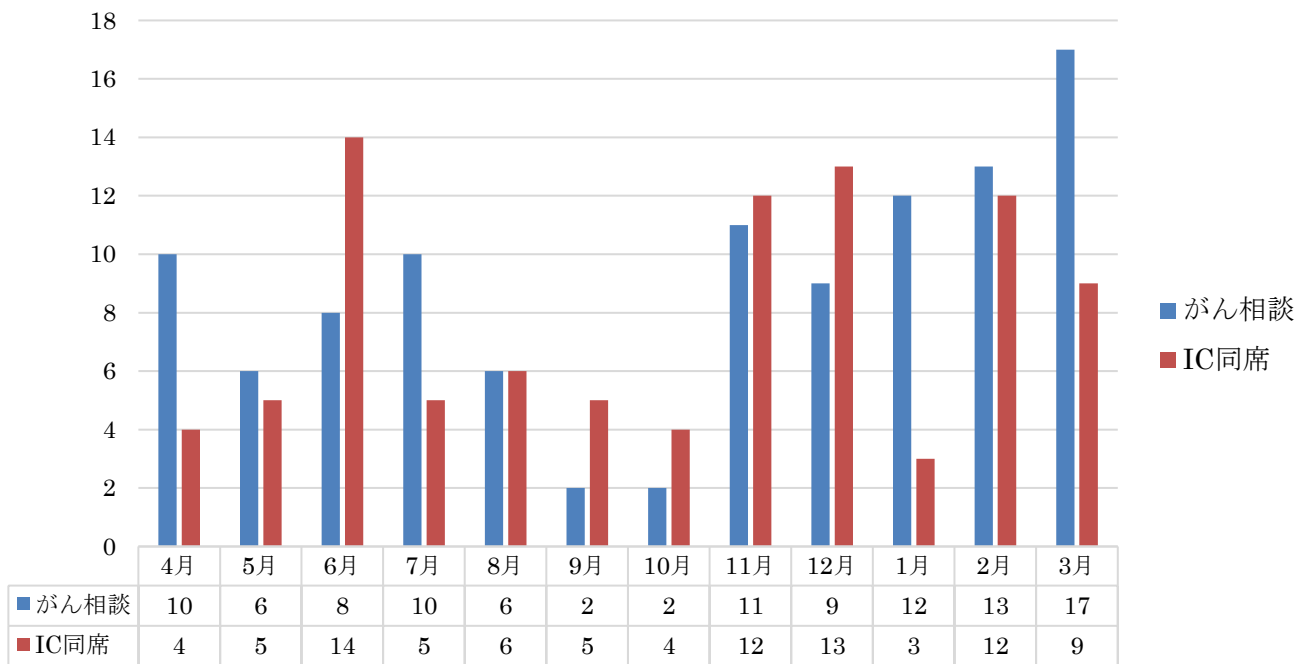


③ 退院後・同行訪問件数及び内訳

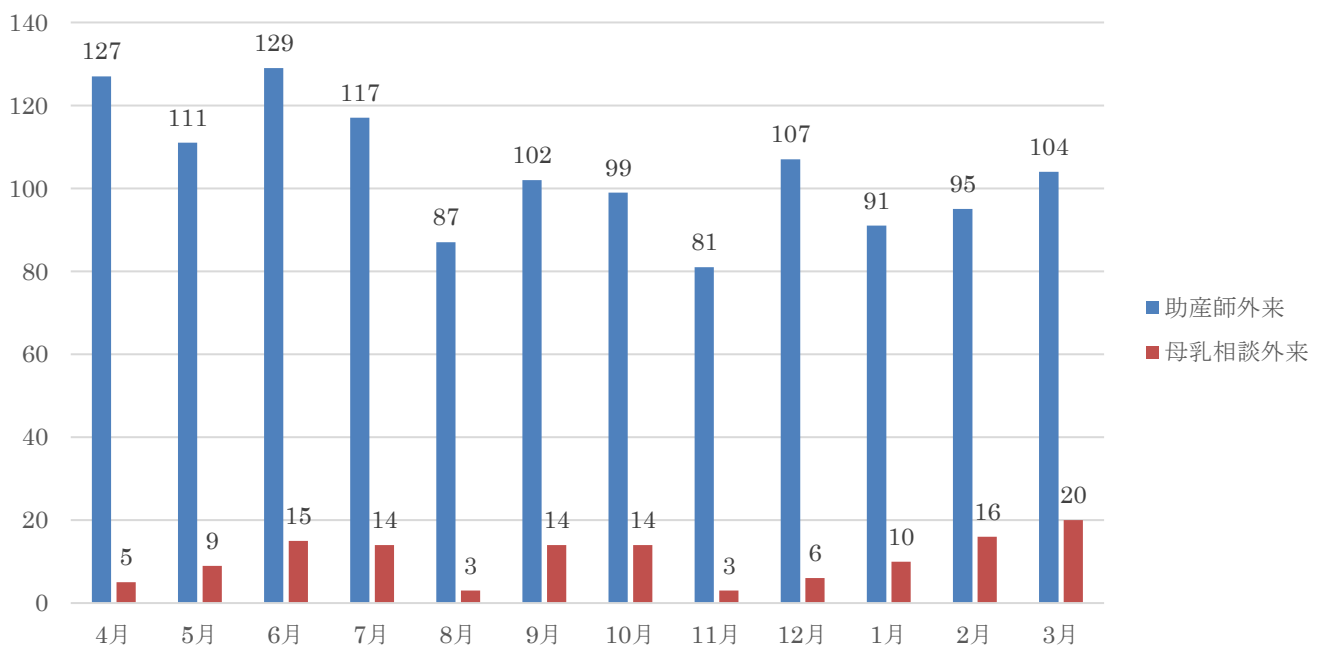


3) 看護外来：【がん看護外来】・【助産師外来・母乳育児外来】2022年度 実績

① がん看護外来 (総数：198件 11月より週5日外来対応とし前年度124件より増加傾向)



② 助産師外来総数 (助産師外来：1379件、母乳相談外来：129件、10月から開始した産後2週間健診81件)



分娩件数は、昨年度から減少しており、助産師外来数も減少傾向である。

今後の課題は、産後ケアの充実・母乳推進を図るための助産師外来の仕組みを再構築していきたい。

4) 看護部主催 教育講習会開催：【新生児蘇生法】2022年度 講習会開催

2022年度は、感染予防のため開催を中止した。

5) 院外活動：地域活動・集患 【看護部主催 公開講座】

1. オンライン健康講座

前年度に引き続き、病院ホームページ上で YouTube 配信を行った。



海浜病院 ホームページ
オンライン健康講座用
QRコード



| 講座名 | | 配信内容 |
|---------|--|---|
| 糖尿病シリーズ | 糖尿病を知ろう ～糖尿病は身近な病気です～ (2型糖尿病の話) | 2型糖尿病の基本 |
| | 糖尿病の運動療法 | 糖尿病の患者さんが身近にできる自宅での運動療法 |
| | 糖尿病の食事療法 Part 1：痩せるだけで治療が楽に！？ Part 2：食事療法＝楽しみ＋治療 Part 3：手抜き万歳！楽しんで続ける食事療法 | 自己管理できる楽な食事の方法 外食の際に、気をつけてもらいたい事 ※短時間で視聴できる3部構成 |
| 乳がん | 乳がんを知ろう | 基本的な乳がんの疾患や検査など |

2. 市民公開講座

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら対面で市民公開講座を開催しました。場所は、地域住民の利便性とイオン様のご協力があり、イオンマリニピアショッピングセンターで開催いたしました。講師は、認知症看護認定看護師、作業療法士、管理栄養士の多職種で担当しました。座学のみではなく、簡単にできる体操を実際に行いながら紹介しました。同時に、血圧や骨密度の測定といった地域住民の方の健康管理に役立てていただけるイベントも開催しました。

| 月日 | テーマ | 講師 | 場所 | 参加人数 |
|--------|-------------------------|--|------------------------------|-------|
| 10月22日 | 脳を活性化して、 自分らしく生活しよう！ | 藤原成美 (認知症看護認定看護師) 高山隆太 (作業療法士) 高倉由美子 (管理栄養士) | イオンマリニピア ショッピングセン ター4階 | 15人程度 |

6) 人材確保：【病院説明会】

前年度に引き続き、ふれあい看護体験やインターンシップは開催中止となりました。そのようななかで、看護師を目指して学んでいる学生等が病院を知る機会が減っています。オンラインでの病院説明会を計画的に開催し、病院スタッフも参加することで現場の声を届けてきました。また、感染状況を鑑みながら対面での病院説明会を開催するとともに、海浜病院での看護実践を広く知っていただくことを目的に、看護情報誌でご紹介いただきました。これからも、さまざまな機会を活用して海浜病院を知っていただき、人材確保につなげたいと思います。

| テーマ | 氏名 | 書籍等 | 依頼先 |
|---|--|------------------------|---------|
| 一人ひとりに向き合い、 「がん看護外来」で活躍する認定看護師 きめ細やかな支援を目指す | 狩野桂子 (がん化学療法看護認定看護師) 中村志穂 (乳がん看護認定看護師) 高島美智子 (緩和ケア認定看護師) 鈴木静江 (外来) | 看護情報誌 Tiara No. 141 | ニプロ株式会社 |

7) 臨地実習：【8教育機関】

令和4年度の臨地実習は、新型コロナウイルス感染症拡大によるBCPのフェーズに則り、8月22日～9月30日までの約1ヶ月間受け入れを中止しましたが、8教育機関（実習生延べ696名）の受け入れをすることができました。

今後の課題：

教育機関及および看護師・助産師の資格取得を目指す学生は、知識・技術の習得において、臨地での学びを必要としています。また、臨地実習での経験や学生が感じる病院の雰囲気は、学生にとって就職先を決定する上で重視する事項です。そのため引き続き、人材育成の貢献だけでなく、今後の人材確保対策として、教育機関とも連携しながら、柔軟に対応し臨地実習を実施していくことが課題です。

8) 学会発表・座長 一覧

| 年月 | 所属 | 氏名 | テーマ | 主催 |
|---------------|----|-----------------|--|---------------------------|
| 令和4年 8月30日 | 外来 | 宮川 吉恵 中村 明美 | 化学療法患者の情報管理方法システムの 考案・活用までの取り組み | 第60回 全国自治体病院学会 |
| 令和5年 3月4日 | 外来 | 待山 ゆう子 小谷 勇登 | 当院におけるMET要請シミュレーション 院内周知及びMETチーム多職種連携について | 第50回 日本集中治療医学会 学術集会 |

9) 執筆 一覧

| テーマ | 所属 | 氏名 | 書籍等 | 依頼先 |
|--|---------|---------------|---|--------|
| 手技・ケア・家族対応 とことん！ 自施設紹介！ ポジショニング | N I C U | 平井 麻美 石塚 絢 | with NEO, 大阪 メディカ出版, 35 (5) 79-81, 2022. | メディカ出版 |
| サブスペシャリティを極める学習 —小児看護の実践力を高めるために— ①N I D C A P | N I C U | 松本 直美 | 小児看護, 東京 へるす出版, 46 (1) 94-99, 2023. | ヘルス出版 |

10) 院外講師派遣 等 一覧

| 科目 | 所属 | 氏名 | 時間数 | 依頼先 |
|------------------------------------|--------------|--------|--|------------------------------|
| 令和4年度 「看護の日・看護週間」 中央行事 | 7階病棟 | 橋本 理恵 | 令和4年5月8日 13時00分～14時00分 | 公益社団法人 千葉県看護協会 |
| 第27回KCH ICLS コース | 6階病棟 | 鈴木 修子 | 令和4年7月3日 令和5年2月19日 8時00分～18時00分 | 千葉メディカルセンター |
| ストーマ管理と創傷処置 | 6階病棟 | 鈴木 修子 | 令和4年7月16日 10時30分～12時30分 | カンナ訪問看護 ステーション |
| 新人助産師研修 ～母乳育児～ | 7階病棟 | 橋本 理恵 | 令和4年9月5日 13時15分～16時15分 | 公益社団法人 千葉県看護協会 |
| 老年看護学方法論Ⅱ | 4階病棟 | 藤原 成美 | 令和4年9月7日、12日（4 時間） | 青葉看護専門学校 |
| 小児看護学方法論Ⅱ | 新生児科 | 石塚 絢 | 令和4年9月8日 9時00分～10時30分 | 青葉看護専門学校 |
| 第21回認定看護管理者教 育課程セカンドレベル 統合演習 | 看護部 | 川村 美穂子 | 令和4年9月22日、10月13 日、11月11日、21日、 （9時30分～12時30分） 11月29日 （9時30分～16時15分） | 公益社団法人 千葉県看護協会 |
| 第20回認定看護管理者教 育課程セカンドレベル 統合演習 | 看護部 | 川村 美穂子 | 令和4年10月12日 （9時30分～16時00分） | 公益社団法人 千葉県看護協会 |
| NEOセミナー 臨床の「知」を語り合う | ICU | 佐久間 和幸 | 令和4年10月15日 10時30分～12時00分 | 医学書院 |
| 令和4年度若いオスト メイト交流会 in ちば | 6階病棟 | 鈴木 修子 | 令和5年1月22日 13時30分～16時 | 公益社団法人 日本オストミー協会 千葉県支部 |
| がん看護研修 | 相談支援 センター | 高島 美智子 | 令和5年3月2日 16時15分～17時45分 | 医療法人社団汐風 |
| 令和4年度 自己評価委員会 | 看護部 | 千代田 操子 | 令和5年3月6日 14時～14時50分 | 青葉看護専門学校 |
| 令和4年度 カリキュラム検討委員会 | 看護部 | 千代田 操子 | 令和4年3月17日 15時～15時50分 | 青葉看護専門学校 |